

本時のねらい

自分のスピーチを客観的に比較、分析し、より良いスピーチができるようになる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・自分の発表の様子を客観的に視聴し、良かった点、反省点を分析し、今後の自己のスピーチや発表の活動に生かす。
- ・手本となるものと自分のものを比較することで、どこをどうしたら良くなるのかを具体的に考える。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・カメラアプリ ・個人のスピーチを撮影した動画 ・スピーチ見本動画

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に撮影した「夢」をテーマとしたスピーチ動画をAirDropで送り合う(ペア)。 ○ペアでお互いのスピーチ動画を鑑賞する。 ○見本スピーチ動画を視聴し、良い点を挙げる。 →目線、声の強弱、間、構成、姿勢など 【写真1】 	<ul style="list-style-type: none"> ○はじめに全員で同じ動画を視聴することで、良い点を共有し、より良いスピーチ(話し手)の観点を整理する。 ※本時は、スピーチにおける抑揚等を参考にする観点から、有名人の動画を活用したが、ねらいに応じ、教員が自作した動画を活用するなども考えられる。
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> ○観点を確認しながら、より良い話し手になるために今の自分にできていること、必要な力を分析する。 ○ペアで動画を見合い、それぞれアドバイスを伝え合う。 ○スピーチ原稿に改善点等を書き込み、各自で練習を行う。 【写真2】 	<ul style="list-style-type: none"> ○見本動画と自分の動画を見比べる。 ○ペアでお互いの動画を見合うことで、良いところや改善点に気付く。また、1回の発表だけでは気付けないことが、動画であれば、止めたり、戻したりすることができ、より詳しく、具体的なアドバイスが行える。
まとめ (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ○分析したこと、意識したいことを確認しながら、お互いにスピーチ動画を撮り合う。 ○撮影した動画をAirDropで提出する。 【写真3】 	<ul style="list-style-type: none"> ○何度も撮り直すことが可能。 ○AirDropで提出することで直接教員のiPadにデータが届く。

1人1台端末を活用した活動の様子



(写真1)事前に撮影したスピーチの動画を視聴しています。



(写真2)ペアでお互いのスピーチ動画を視聴しながら、アドバイスをを行い、スピーチ原稿に改善点等をメモしています。



(写真3)分析した上での改善点を意識しながら、再度、ペアで動画撮影を行っています。

児童生徒の反応や変容

見本スピーチ動画でより良いスピーチ(話し手)に必要な力を具体的にあげることで、イメージがしやすくなった。さらに、自分の動画を客観的に見たり、お互いアドバイスをし合ったりして、意識するポイントが明確になった。以前のスピーチに比べ、声の大きさや間の取り方、顔を上げるなどより良いスピーチができるようになった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・動画を活用することで、自分のスピーチを止めたり、戻したりしながら、ペアで具体的に良い点や改善点を具体的に伝え合うことができ、スピーチの技能の向上だけでなく、よりよい書き手としての表現力の向上にもつながる。
- ・動画撮影は比較的容易なスキルであり、撮影後は自身を客観視し、改善へとつなげる流れは、他の活動でも応用ができ、汎用性が高いと考える。
- ・自分の映像を見ることに抵抗がある生徒も、ペアにするなどの環境づくりをすることで、主体的に学ぶことができる。
- ・ペアの動画が自分のiPadに残ることがないように留意するなど、情報モラルの視点においても指導することが大切である。